

令和6年9月24日

「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」
第93回（通算第172回）定例会 会議録

◆日時：令和6年9月17日（火） PM7：05～8：35
◆場所：田辺市医師会館 3F 大講堂
◆出席者：27名 + オンライン 3名
別紙のとおり

1. 「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」定例会について

【19：05～20：35】

19：05～ 開 会

19：05～19：55 研 修
「災害時における保健医療福祉調整本部の活動について」
～能登半島地震への派遣から考える～
講師：田辺保健所 保健課
課長 和田 圭司氏

19：55～20：35 意見交換・発表

20：35 閉 会

【講義内容】

- ・ DHEAT（災害時健康危機管理支援チーム）

【活動理念】 防ぎ得た死と二次健康被害を最小化すること・できる限り早く通常の生活を取り戻すこと

【役割】 被災都道府県庁の保健医療福祉調整本部及び保健所における指揮調整機能の支援

【枠組み】 メンバー（公衆衛生分野の専門職及び業務調整員から5名程度で構成）

活動時期：フェーズ1～3（発災後からおおむね1か月程度）

活動期間：1班あたり1週間以上が標準

活動場所：被災都道府県庁・保健所・保健所の管轄する市町村

- ・ 能登半島地震においても田辺保健所から派遣

【日程】 1/21～1/29、

【活動場所】 石川県能登中部保健福祉センター・七尾市役所健康福祉部・志賀町役場、

【派遣人員】 医師1名＋保健師2名＋業務調整員2名、

【業務内容】 医師1名＋業務調整員2名→能登中部保健福祉センター（能登中部保健所）に設置されている能登中部保健医療福祉調整本部の運営支援業務、保健師1名→七尾市保健福祉部にリエゾンとして派遣、保健師1名→志賀町にリエゾンとして派遣

- ・ 能登中部保健医療福祉調整本部イメージ



- ・ 情報交換は毎日開催されるミーティングを通して実施

以下の活動方針に基づいて活動。朝に方針を確認→夕方に報告と現状分析

※現状分析と活動方針

- ①CSCAの確立 ②被害状況全般 ③保健医療 ④介護・福祉 ⑤病院支援 ⑥ライフライン ⑦病院・施設避難 ⑧搬送調整 ⑨避難所・在宅 ⑩ロジ支援

- ・ 能登中部保健医療福祉調整本部会議

能登中部保健医療福祉調整本部会議

能登中部地域の保健医療福祉を考える最も重要な会議
本部長（保健所長）であり、能登中部保健所が事務局を運営
DHEATが全面的に支援（DHEATリーダーが議事進行・DHEATログが資料作成）

【構成機関】

DMAT・災害医療コーディネーター
日赤・JMAT・DPAT・JRAT・DWAT（災害医療調整チーム）
七尾市医師会・羽咋郡市医師会
七尾歯科医師会・羽咋歯科医師会
薬剤師会七尾鹿島支部・薬剤師会羽咋支部
七尾市・志賀町
中能登町・羽咋市・宝達清水町
公立能登総合病院・恵寿総合病院
町立富来病院
七尾鹿島消防・羽咋郡市消防
保健所・DHEAT



【開催場所と方法】

毎日17:00開催
2階小会議室（本部の隣）
ハイブリッド方式（ZOOM）

参考【資料】
・会議次第
・経費の請求書
・地域別の被災状況及び0244避難所情報（石川県保健医療福祉調整本部会議資料参照）
・福祉施設状況（福祉施設支援班とりまとめデータ）
・避難所被災者情報（能登中部保健所作成）
・支援物資DHEATデータ（石川県保健医療福祉調整本部会議資料参照）
・その他

8:00 全体ミーティング → 8:15 リーダーミーティング → 各自活動 → 16:00 リーダーミーティング → 16:45 全体ミーティング → 17:00～能登中部保健医療福祉調整本部会議を毎日実施していた協議内容によりメンバーを選定して行う各種ミーティングは随時

- ・ 振り返って（取り組むべき課題）

【田辺保健医療圏の保健医療調整本部】

- ・ 本部の場所の検討（病院？行政機関？その他）
- ・ 本部設置時期の検討（どのフェーズか？急性期の医療ニーズの減少？）
- ・ 本部設置要綱の作成（福祉の参画が必要であることから県の設置要綱の改正）

【受援体制】

- ・ 窓口やシステムの確立、役割分担

【平時】

- ・ 顔の見える関係づくり（キーパーソン）、訓練の実施、福祉や防災関係者との連携

【その他】

- ・ 被災地災害派遣の経験、通信手段の確保

・令和6年度田辺地域災害医療訓練概要

【目的】 発災1週間後における災害医療体制の構築（亜急性期における田辺地域保健医療福祉調整本部を中心とした災害医療体制の構築）

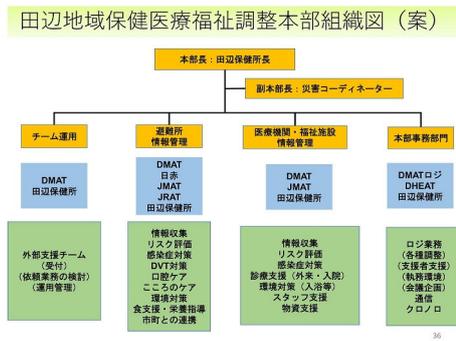
【日時】 令和7年1月26日（日）9：00～12：30 予定

【場所】 西牟婁総合庁舎

【災害の想定等】 発災後8日目（三連動規模の地震が発生+津波による被害とする想定）

【訓練の方法】 各関係機関の情報伝達・対応訓練（机上のロールプレイング方式）

・組織図案



- ・ これまでは災害時は急性期を主眼とした「保健医療調整本部」から、今後は「災害関連死」を少なくするため、横断的切れ目のない体制の構築を目的とした「保健医療福祉調整本部」が設置されます。これまでの保健医療分野に加えて、福祉分野の災害対応も必要となります。まずは、福祉施設等との連携からスタートしましょう！

【意見交換】

○ 1週間後にどんな状況になっているか

- ・ 薬局：おいてある在庫や備蓄量の確認。近くの医療機関と相談して、薬を提供していると思う。
感染症対策の指導
- ・ 訪問看護：避難先の紹介や関係機関との連携。そもそも自分が出勤できるかどうか
- ・ 包括：利用者や要配慮者の把握
- ・ リハビリ：避難所でのリハビリができるかも
- ・ 施設：避難してきた人をどこまでサポートできるか。薬の確保を悩ませている

○ 発災後に必要なこと

- ・ まずは自分の命。自身も被災者 →でも自分たちが動かないと地域が復旧しない・
- ・ 助け合うところが本部で、いろんな交通整理をするところ
- ・ 福祉分野との連携がポイントに
- ・ 在宅の利用者は行政の窓口任せだけでなく、在宅のケアマネにも協力してもらったり、町内の見守り機関の協力（民生委員とか）を得る
- ・ 各々の専門性をもとに支援を振り分ける
- ・ 道路が復旧してやっと発見される人も出てくると思う
- ・ 広範囲に利用者は生活している。それを各々の機関がサポートしていくのはむずかしいので、訪問看護などではエリア担当制にするなどの工夫が必要。
- ・ ケアマネ：自分の住んでいるエリアと利用者のエリアが異なる
→利用者情報をマッピングしている。これを事業所のCMで共有し安否確認できればと思っている
- ・ 情報共有にICTが重要なのはわかるが、通信環境が整っていなければ、紙での情報も必要
- ・ 施設では、比較的動ける人を避難させることになるかも

⇒災害時に各機関が動きやすくなるためには連携が必要で、そのためには平時の訓練が有効。

【次回の定例会】

→以下の日程で実施する。

日時：令和6年10月15日（火） 午後7時～

場所：田辺市医師会館 3F 大講堂

内容：未定